

2022 年 11 月 25 日

The Emerging Markets Weekly

米利上げペース減速期待が支えに

新興国市場：前週末 18 日、新興国通貨はまちまち。アジア時間は前日の FRB 高官のタカ派発言を消化する格好で IDR や KRW が軟調も、前日に織り込み済みの CNY は反発、THB や PHP も堅調だった。欧米時間も方向感に乏しい展開の中で、ZAR や BRL が上昇も、TRY や東欧通貨の多くが値を下げた。週初 21 日、新興国通貨は大半が下落。中国における COVID-19 感染者数増加や北京市で死亡者が出たことが嫌気された。アジア時間では THB と KRW が前日比▲1%超下落、CNY や MYR も値を下げた。欧米時間では東欧通貨の下げが目立ったほか、MXN や ZAR も下落。片や、BRL は次期大統領が財政責任の重要性に言及したことを手掛かりに前日比+1.3%上昇した。22 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。目新しい材料もなく方向感を欠く展開となった。ただ、欧州時間に入り多くの新興国通貨は反発。FRB 高官から利上げペース減速を容認する発言が続く中、米株が大きく上昇しセンチメントが改善。ECB 高官からは 75bp の利上げペースを維持する発言が目立ち、ユーロの反発に東欧通貨が値を上げた。ZAR や MXN も反発。一方、BRL は前日比▲1.0%の反落となった。23 日、アジア時間の新興国通貨はまちまち。前日のセンチメント改善の流れはありつつも、中国における一部行動規制の強化等が重しとなった。PHP や KRW が堅調も、THB や CNY は値を下げた。欧米時間の新興国通貨は総じて上昇。FOMC 議事要旨や米経済指標の弱含みに、利上げペース減速の期待が高まった。ZAR は前日比+1.6%上昇、東欧通貨も続伸となった。24 日、アジア時間の新興国通貨は前日の流れを引き継ぎ堅調。MYR は政局不安後退も重なり急騰、KRW と THB も前日比+1%超上昇した。欧米時間の新興国通貨はまちまち。米国が休場であったこともあり、方向感に乏しい展開となり、BRL が続伸した一方、ZAR は反落となった。

アジア：21 日発表の中国 9 月最優遇貸出金利 (LPR) は、従来水準 (1 年物: 3.65%、5 年物: 4.30%) に据え置かれた。21 日、中国人民銀行 (PBoC) が住宅建設の完了を支援する目的で商業銀行 6 行に 2000 億元を融資すると報じられた。23 日、中国国務院常務会議 (22 日に開催) で、預金準備率 (RRR) の追加引き下げが検討されたと報じられた。23 日発表のシンガポール 10 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+6.7%と前月 (同+7.5%) から大きく減速した。韓国銀行 (BOK) は 24 日、政策金利を 25bp 引き下げ 3.25%にすると決定。景気や金融市場の動向を鑑み、利上げ幅を縮小した。マレーシアのアブドラ国王は 24 日、アンワル元副首相を次期首相に任命した。下院選 (19 日投開票) では主要 3 政党連合がいずれも過半数を確保できず、政局不安が高まっていた。

中東欧・アフリカ：23 日発表の南アフリカ 10 月 CPI は前年比+7.6%と 9 月 (同+7.5%) から小幅に加速した。トルコ中央銀行 (CBRT) は 24 日、政策金利を 150bp 引き下げて 9.00%にすると決定した。声明文では、利下げサイクルは終了と説明した。南アフリカ準備銀行 (SARB) は 24 日、政策金利を 75bp 引き上げて 7.00%にすると決定した。5 名中 2 名の委員は 50bp の利上げを主張した。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(インドネシア)

11 月金融政策会合～50bps の利上げを継続

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 16～17 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを従来の 4.75%から 50bps 引き上げて 5.25%とした(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も同じ幅だけ引き上げてそれぞれ 6.00%、4.50%とした。BI は 4 会合連続での利上げを決定し、利上げ幅は 10 月会合に続き 50bps を維持した。なお、ブルームバーグの事前予想では 50bps の利上げが優勢であった。

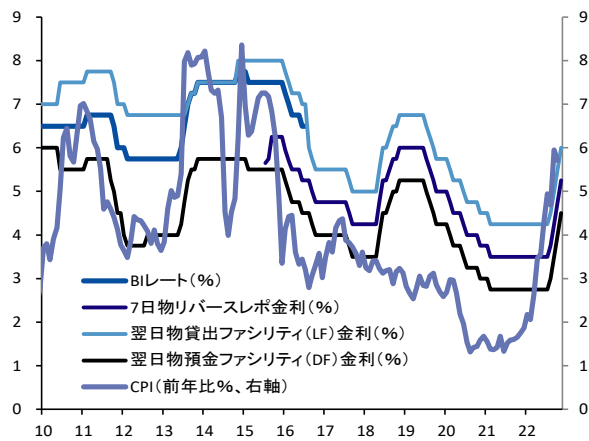
声明文及びペリー BI 総裁の会見では、前回会合に続きインフレ高進や先進各国の金融引き締めによる 23 年以降の景気減速懸念を指摘。特に、FRB のタカ派姿勢については、ドル高と共に新興国通貨安の要因となっているとした上で、タカ派路線の継続が 23 年前半まで続く可能性があるとの見解を示した。

国内経済については内需の回復と堅調な輸出実績にサポートされて着実に正常化していると総括された。11 月に入り 7～9 月期実質 GDP 成長率が公表されており、結果は前年同期比+5.7%と前回の同+5.4%から加速した(図表 2)。また、PMI をはじめ複数の経済指標で国内経済の回復が順調に進んでいる状況が示唆されており、足許において BI は利上げを継続しているものの、実体経済への影響は依然限定的であるとの見方を示している。なお、22 年の成長率は従来の予想レンジである前年比+4.5～+5.3%の上限付近となるとの見方を変えておらず、23 年以降は景気減速懸念が燃える中でも内需を中心に景気回復が継続することに期待感を示した。

一方、消費者物価指数(CPI)は直近において BI の定める目標レンジ(+2.0%～+4.0%)の上限を 5 か月連続で上振れた(図表 3)。10 月 CPI は前年比+5.7%と 9 月の同+6.0%から減速したものの高止まりが続いた。食料品価格の上昇は一服しつつある一方で、政府が 9 月にガソリン・軽油に対する補助金の充当を取り止めた影響もあり燃料価格はまとまった幅で上昇した。また、食料品・燃料価格を除くコア CPI も引き続き騰勢を強めている。こうした状況下、ペリー総裁は今回の利上げをインフレ期待の低下と、23 年後半までに CPI を目標レンジに収束させる上で、予防的な措置と位置付けている。一方で、依然インフレは制御可能な水準にあることを強調し、積極的な利上げは必要ないことを示唆した。この BI の姿勢については前回会合のものをそのまま踏襲した格好だ。

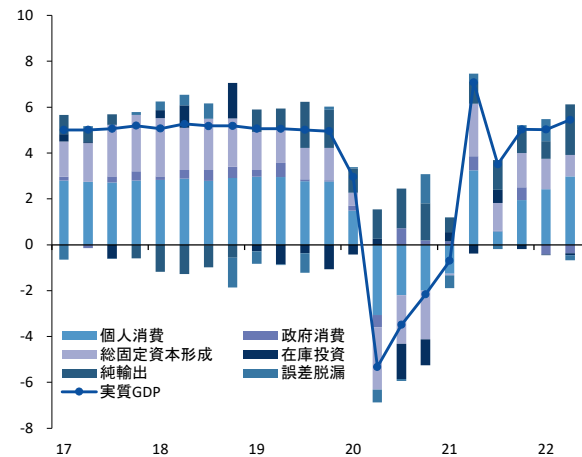
会合後の IDR の動向は引き続き年初来安値付近での推移となっているが、図表 4 に示される通り、概ね両国の短期金利差と整合的な動きとなっている。BI は利上げの要因として IDR 相場に配慮した点に言及しているが、FRB の利上げペース減速の予想を受けて、両国の金利差(米国ーインドネシア)の縮小が一服しつつある。もっとも、23 年前半まで FRB の利上げが継続することが見込まれる以上、その期間における IDR の安値更新の可能性には警戒したい。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



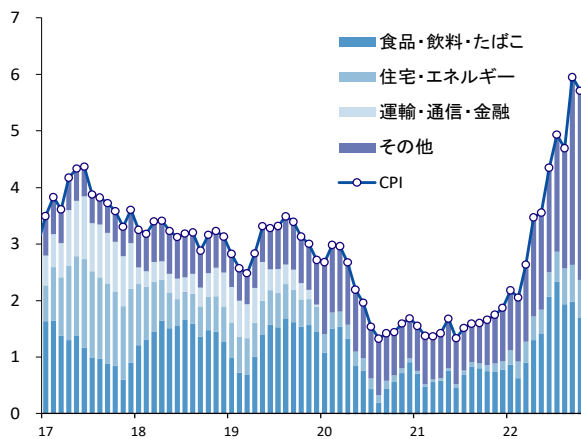
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: インドネシア実質 GDP 成長率(前年比%、%ポイント)



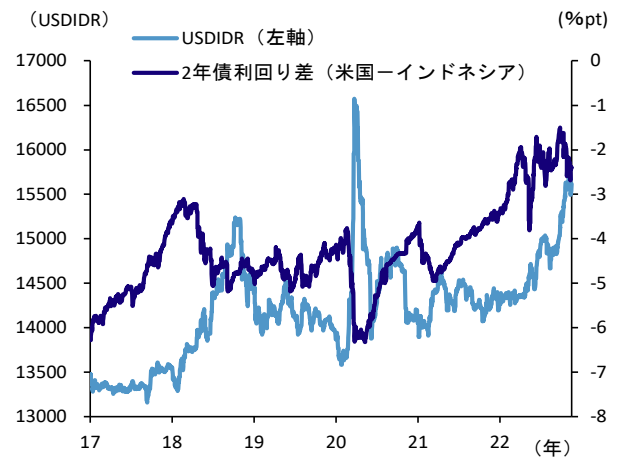
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 4: IDR 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(マレーシア)

総選挙実施も不安定な政局は変わらず

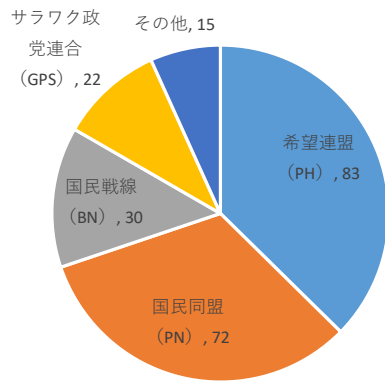
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マレーシアでは 19 日、連邦議会下院選挙が実施された。アンワル元副首相が率いる希望連盟(PH)、ムヒディン前首相がトップの国民同盟(PN)、イスマイルサブリ現首相が所属する国民戦線(BN)のうちどの政党が勝利するかが主な争点であったが、結果はそれぞれ 82 議席、73 議席、30 議席といずれの政党も過半数獲得には至らなかった(図表 1)。マレーシア憲法では、国王が下院議員の過半数の信任を得ていると判断する議員を首相として任命すると定めており、選挙後は PH や PN がどのようなかたちで連立政権を形成するかが注目されたが、24 日、PH が BN をはじめ複数政党と連立構築し、その代表であるアンワル氏が首相に任命された。

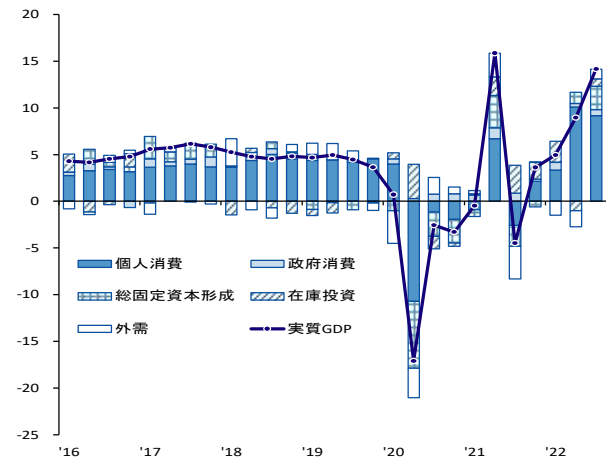
過去の政局を簡潔に振り返ると、ムヒディン前首相は連立相手の政党の所属議員による連立政権離脱が相次いだことで、議会の過半数の支持を維持できず 21 年 9 月に辞意を表明。その後アブドラ国王がイスマイルサブリ現首相を新たに過半数の議員の支持を得たとして新首相に任命した。とは言え、同氏の支持も辛うじて過半数を満たしている状況が続いた。早期の政情安定化が課題であったものの、マレーシア経済が新型コロナウイルスの感染拡大で低迷したこともあり、各党との協調を得ながら、景気回復を優先するかたちでイスマイルサブリ首相は政権運営を続けた。かかる中、マレーシア経済が足許で堅調さを取り戻しつつあること(図表 2)、各党の対立が表明化する前に総選挙を実施したいといった思惑から、10 月に連邦議会下院を解散し今回の選挙に至った。

今回の選挙では 19 年の憲法改正によって選挙権を持つ年齢が 21 歳以上から 18 歳以上に引き下げられて最初の総選挙であり、PH や PN の優勢は若年層の支持を取り込めたことによるものといった声も見られる。片や、長年マレーシアの政治をリードしてきたマハティール元首相は今回の選挙に出馬していたが落選となっており、同氏が率いた祖国闘士党は 1 議席も獲得出来ず大敗を喫する格好となった。マハティール元首相が退任した 20 年以降、政局争いは複数の政党、候補が乱立しており、今回の選挙においても、早晩に政治の安定性を取り戻す結果では無かったと総括できるだろう。

今回の選挙はアンワル氏を首相として、解散前の連立政権を主導していた BN との連立政権を立てるかたちで決着したが、BN のイスマイルサブリ政権下で既に来年度の予算案は作成済みであり、独自の政治色を打ち出すことは難しい印象がある。このほか、首相の地位を維持するためには継続して過半数の議員の支持を得る必要があることから、各党の思惑を汲んだ政策運営が要求されていくことが想定される。先述の通りマレーシア経済はコロナ前の水準を回復した状況にあるが、世界経済減速懸念に伴って成長率が減速する可能性や国内のインフレ抑制など経済面での課題も多い。引き続き各政党が一枚岩となって解決していく以外にないであろうが、現状そのハードルは高いと言わざるを得ないだろう。

図表 1: マレーシア総選挙獲得議席状況 (11/20 時点)


出所: 各種報道よりみずほ銀行作成

図表 2: マレーシア実質 GDP 成長率 (前年比%, %ポイント)


出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

市場概観(新興国)

2022 年 10 月のファンドフロー

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

2022 年 10 月の新興国ファンドへの資金フローは、前月比▲49.1 億ドルと前月に続き資金流出となった。株式ファンドは同+67.2 億ドルと 3 か月連続の流入、流入額も拡大した。一方、債券ファンドは同▲116.4 億ドルと前月(同▲145.5 億ドル)から流出額は縮小したものの、14 か月連続の流出となった。

地域別ファンドへの資金フローでは、アジア(日本除く)が 4 か月連続の資金流入となった。債券は 9 か月連続の流出となったものの、16 週連続の流入となった株式が補う構図が続いている。また、ラテンアメリカは資金流入に転じた。債券が 5 か月ぶりの流入となったほか、株式も流入に転じた。他方、東欧・中東・アフリカは 6 か月連続の資金流出となった。株式が 6 か月ぶりの流入となるも、3 か月ぶりの流出となった債券の流出額がそれを上回った。

国別ファンドへの資金フローでは、ブラジルでの資金流入が目立った。株式と債券いずれにも資金が流入した。タイも同様な動きから 10 か月ぶりの資金流入となった。また、中国、インド、韓国、マレーシア等へも資金が流入。債券からの流出額を株式への流入額が補うという傾向がみられた。このほか、台湾でも株式への資金流入が堅調で流入額を拡大した。一方、ロシアは 8 か月連続の資金流出。株式と債券のいずれも流出となった。シンガポールでは株式が 3 か月ぶりの流入となるも、債券からの流出額がそれを上回った。

なお、11 月に入っての新興国ファンドへの資金フロー(11 月 16 日時点)は 3 か月連続の流出超となる動きをみせているものの、流出額自体は縮小している。東欧・中東・アフリカ地域で、債券ファンドへの資金フローが大幅な流入超に転じてきていることなどが寄与している。

(注)各国別のグラフは、11 月 18 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

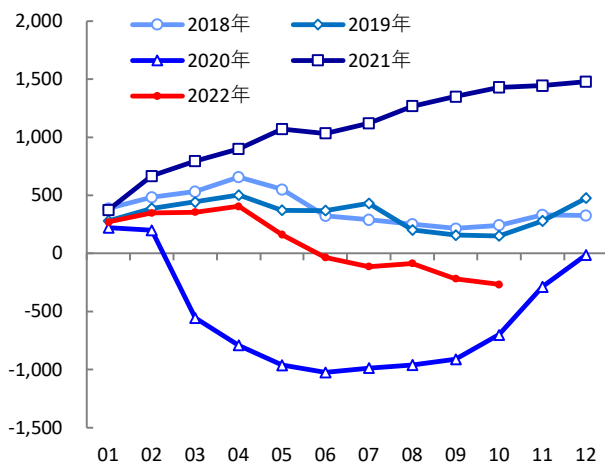
図表 1: 新興国各国・地域のファンドフロー(月次)

	10月 (%)	Zスコア (過去5年)		10月 (%)	Zスコア (過去5年)
新興国	-0.21	-0.4	インドネシア	-0.08	0.4
アジア(日本除く)	0.45	0.2	インド	0.38	0.3
中国	1.42	0.1	東欧・中東・アフリカ	-0.09	0.3
韓国	1.63	0.2	ロシア	-1.23	-0.4
台湾	5.84	0.7	トルコ	0.76	0.1
シンガポール	-0.03	-0.3	南アフリカ	0.46	0.2
フィリピン	1.27	0.4	ラテンアメリカ	2.27	2.0
タイ	0.23	0.3	メキシコ	0.22	-0.2
マレーシア	1.11	0.4	ブラジル	5.16	2.0

注: スコアは株式ファンドと債券ファンドへの資金流入額の前月比変化率で算出。

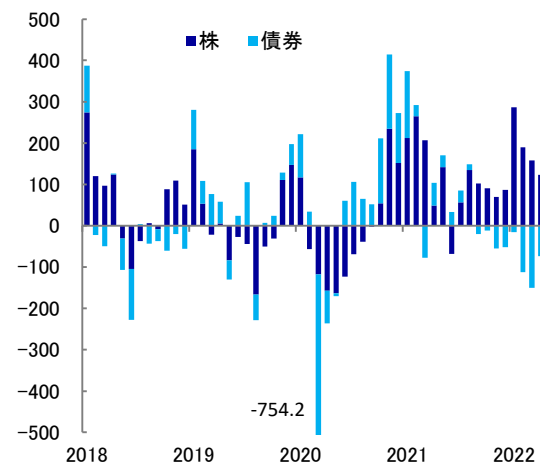
出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 2:新興国(年初来累計額、億ドル)



出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 3:新興国(月次、億ドル)



出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 4:新興国各国・地域別ファンドフローのヒートマップ

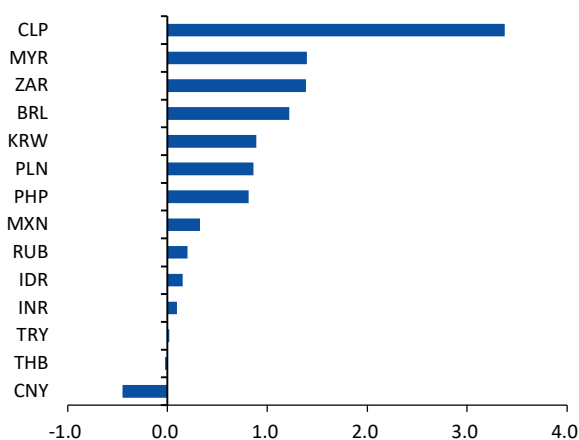
[illegible]

注:過去5年のデータを基に算出したZスコアを用いて作成。赤は資金流出、緑は資金流入を表す。色が濃いほど平均値からの乖離が大きい。

出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

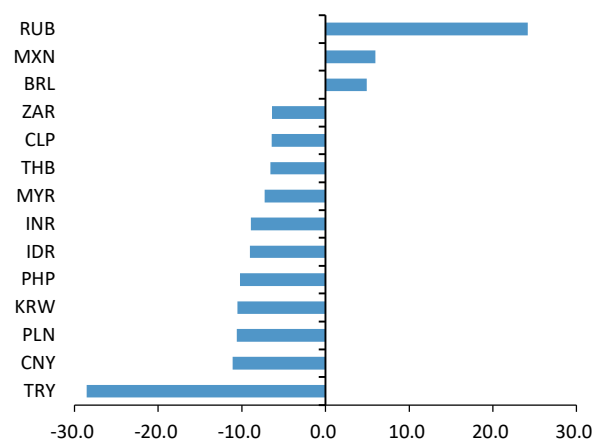
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



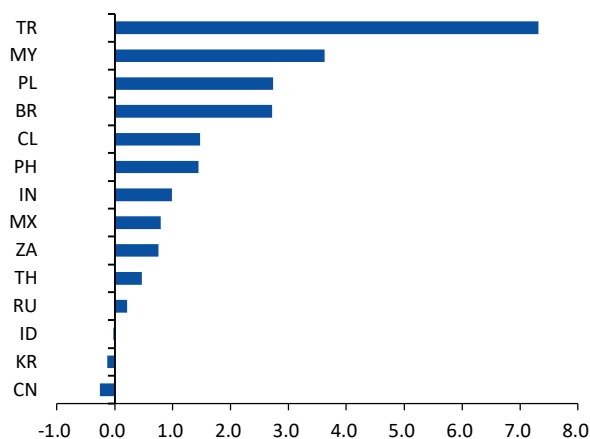
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



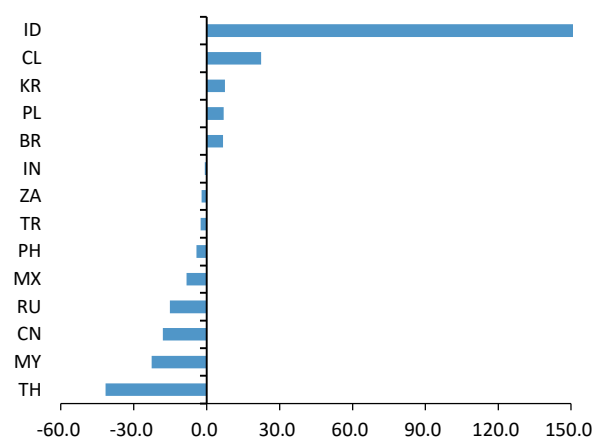
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



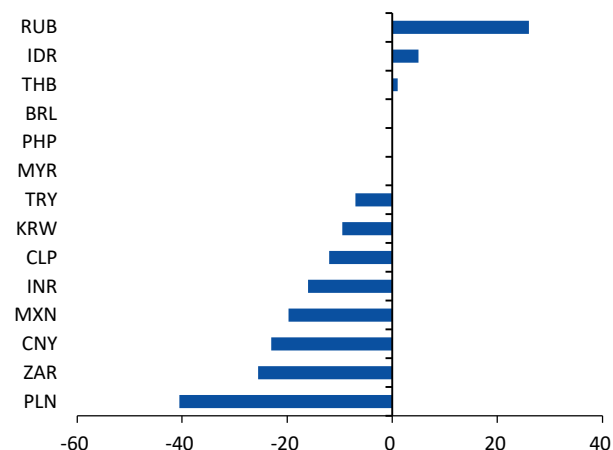
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

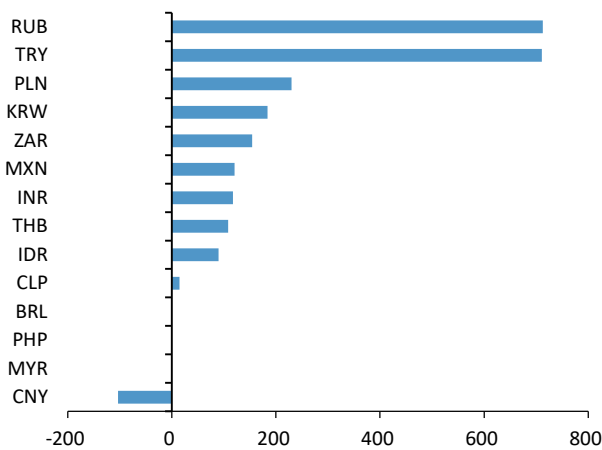
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

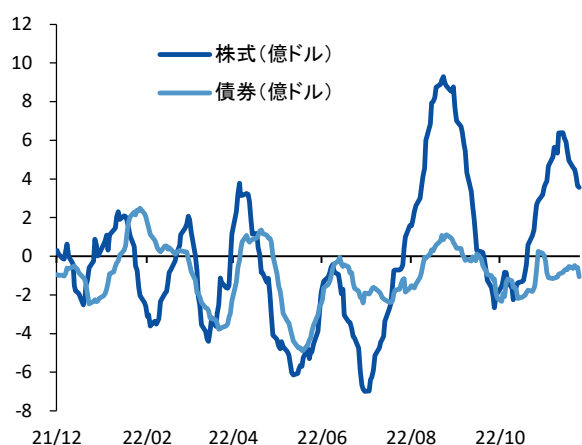


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

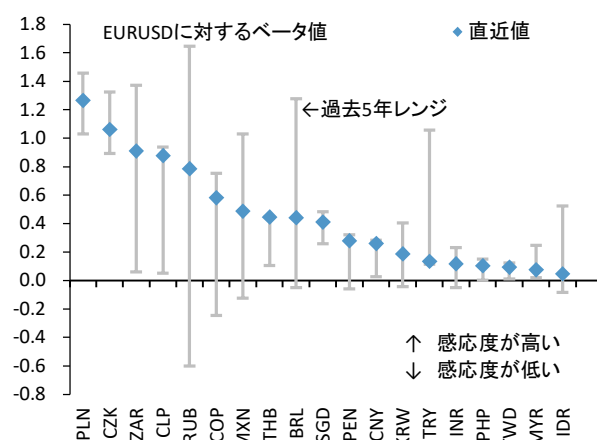
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



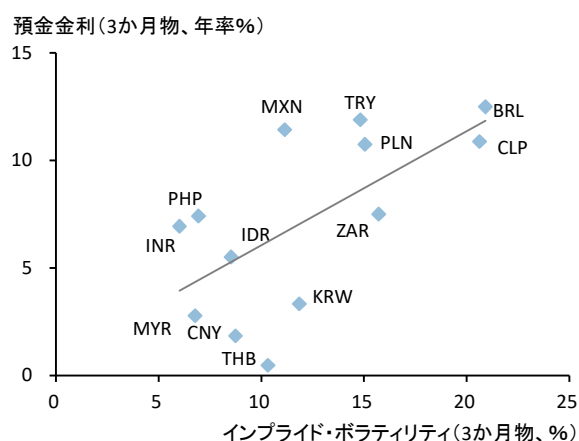
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



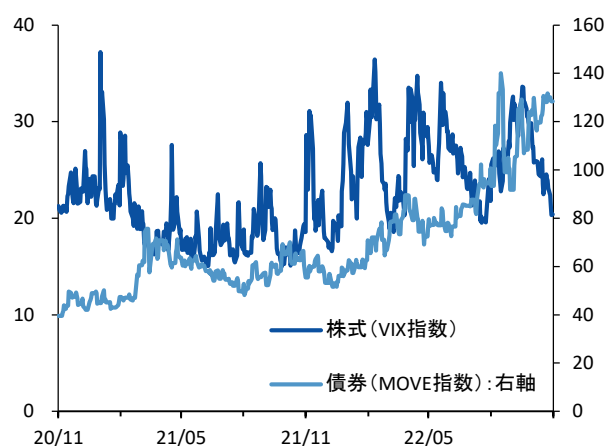
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



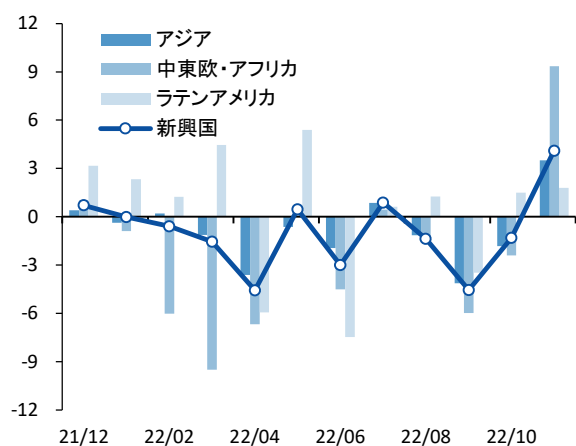
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



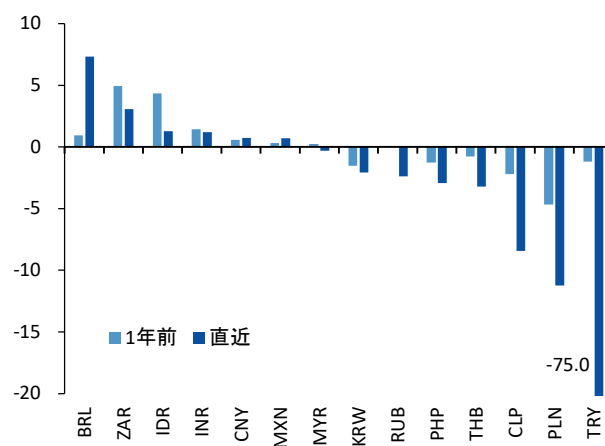
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
11月21日 (月)	タイ	GDP(前年比)	4.5%	4.5%	2.5%	--
21日 (月)	台湾	輸出受注(前年比)	-1.9%	-6.3%	-3.1%	--
23日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	69	73	--
23日 (水)	韓国	景況判断(非製造業)	--	77	78	--
23日 (水)	シンガポール	GDP(前年比)	4.3%	4.1%	4.4%	--
23日 (水)	シンガポール	CPI(前年比)	7.0%	6.7%	7.5%	--
23日 (水)	台湾	鉱工業生産(前年比)	-2.8%	-3.6%	-4.8%	-4.5%
24日 (木)	韓国	PPI 前年比	--	7.3%	8.0%	--
24日 (木)	韓国	韓国銀行7日間レポレート	3.25%	3.25%	3.00%	--
25日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	3.9%	--	4.5%	--
25日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	-1.7%	--	0.9%	--
27日 (日)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	--	--
29日 (火)	台湾	GDP(前年比)	--	--	4.1%	--
30日 (水)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	0.8%	--
30日 (水)	中国	製造業PMI	--	--	4920.0%	--
30日 (水)	中国	非製造業PMI	--	--	4870.0%	--
30日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	--	--	1.00%	--
30日 (水)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	\$623m	--
12月1日 (木)	韓国	GDP(前年比)	--	--	3.1%	--
1日 (木)	韓国	貿易収支	--	--	-\$6700m	-\$6698m
1日 (木)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	4920.0%	--
1日 (木)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	5.7%	--
2日 (金)	韓国	CPI(前年比)	--	--	5.7%	--
中東欧・アフリカ						
11月23日 (水)	南ア	CPI(前年比)	7.4%	7.6%	7.5%	--
23日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	-3.9%	-2.6%	-3.1%	--
23日 (水)	ロシア	PPI 前年比	--	0.8%	3.8%	--
24日 (木)	南ア	PPI 前年比	--	16.0%	16.3%	--
24日 (木)	トルコ	1週間レポレート	9.00%	9.00%	10.50%	--
24日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	7.00%	7.00%	6.25%	--
29日 (火)	トルコ	貿易収支	--	--	-9.60b	--
30日 (水)	トルコ	GDP(前年比)	--	--	7.6%	--
30日 (水)	南ア	貿易収支(ラント)	--	--	19.7b	--
30日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	-9.8%	--
ラテンアメリカ						
11月22日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	3.9%	3.3%	4.7%	--
24日 (木)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	6.2%	6.2%	6.9%	--
25日 (金)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	4.1%	--	4.2%	--
25日 (金)	ブラジル	経常収支	-\$4500m	--	-\$5678m	--
28日 (月)	メキシコ	貿易収支	--	--	-895.4m	--
29日 (火)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	--	--	6.5%	--
30日 (水)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	58.3%	--
12月1日 (木)	ブラジル	GDP(前年比)	--	--	3.2%	--
2日 (金)	ブラジル	貿易収支(月次)	--	--	\$3921m	--
2日 (金)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	0.4%	--

注: 2022 年 11 月 25 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2022年 1～10月(実績)	SPOT	2022年 12月	2023年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマー・ジグアジア								
中国人民元	(CNY)	6.3065 ~ 7.3093	7.1520	7.15	7.20	7.20	7.15	7.10
香港ドル	(HKD)	7.7825 ~ 7.8500	7.8077	7.85	7.84	7.83	7.82	7.81
インドルピー	(INR)	73.779 ~ 83.293	81.628	83.5	81.8	79.3	77.6	78.5
インドネシアルピア	(IDR)	14250 ~ 15634	15664	15750	15550	15400	15200	15000
韓国ウォン	(KRW)	1185.81 ~ 1444.78	1328.35	1430	1450	1430	1410	1400
マレーシアリングギ	(MYR)	4.1645 ~ 4.7417	4.4935	4.90	4.85	4.79	4.71	4.68
フィリピンペソ	(PHP)	50.753 ~ 59.329	56.790	60.0	59.2	58.5	58.0	57.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3408 ~ 1.4492	1.3757	1.42	1.41	1.38	1.38	1.38
台湾ドル	(TWD)	27.496 ~ 32.379	31.018	32.5	33.0	32.5	32.0	31.8
タイバーツ	(THB)	32.09 ~ 38.46	35.77	38.7	38.5	38.2	38.0	37.8
ベトナムドン	(VND)	22627 ~ 24870	24837	24500	24400	24300	24200	24100
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	51.1250 ~ 177.2606	60.5350	62.0	64.0	67.0	71.0	75.0
南アフリカランド	(ZAR)	14.4025 ~ 18.5815	17.0113	17.5	16.7	16.3	15.8	16.3
トルコリラ	(TRY)	12.8029 ~ 18.7658	18.6186	18.9	19.5	19.5	18.8	18.3
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	4.5853 ~ 5.7239	5.3122	5.20	5.05	4.98	4.90	4.90
メキシコペソ	(MXN)	19.4136 ~ 21.4676	19.3817	20.4	20.5	20.6	20.8	21.0
対円								
エマー・ジグアジア								
中国人民元	(CNY)	17.867 ~ 20.965	19.335	21.12	20.97	20.56	20.84	21.13
香港ドル	(HKD)	14.576 ~ 19.357	17.765	19.25	19.26	18.90	19.05	19.21
インドルピー	(INR)	1.491 ~ 1.837	1.693	1.81	1.85	1.87	1.92	1.91
インドネシアルピア	(100IDR)	0.792 ~ 0.976	0.886	0.959	0.971	0.961	0.980	1.000
韓国ウォン	(100KRW)	9.322 ~ 10.729	10.441	10.56	10.41	10.35	10.57	10.71
マレーシアリングギ	(MYR)	27.109 ~ 32.120	30.816	30.82	31.13	30.90	31.63	32.05
フィリピンペソ	(PHP)	2.202 ~ 2.563	2.447	2.52	2.55	2.53	2.57	2.61
シンガポールドル	(SGD)	84.19 ~ 106.28	100.82	106.34	106.86	107.09	108.13	108.38
台湾ドル	(TWD)	4.060 ~ 4.721	4.467	4.65	4.58	4.55	4.66	4.72
タイバーツ	(THB)	3.416 ~ 3.967	3.876	3.90	3.92	3.87	3.92	3.97
ベトナムドン	(10000VND)	0.5005 ~ 0.6168	0.5581	0.62	0.62	0.61	0.62	0.62
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	0.680 ~ 2.667	2.292	2.44	2.36	2.21	2.10	2.00
南アフリカランド	(ZAR)	7.190 ~ 8.813	8.151	8.63	9.04	9.08	9.43	9.20
トルコリラ	(TRY)	7.271 ~ 9.008	7.448	7.99	7.74	7.59	7.93	8.20
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	20.216 ~ 29.222	26.083	29.04	29.90	29.75	30.41	30.61
メキシコペソ	(MXN)	5.377 ~ 7.580	7.156	7.40	7.37	7.18	7.16	7.14

注: 1. 実績の欄は 2022 年 10 月 31 日まで。SPOT は 11 月 25 日の 8 時 25 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。